オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(20)(HP 収載)
－最新アナログシステムでの試聴(20)－

1．始めに

前報(19)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2．モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 と ThorensTD124 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-12 と ThorensTD124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

音源は、新たにモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も、アンサンブルの曲です。

Westminster　VIC-5255

モーツアルト　セレナーデ 10 番変ロ長調「13 管楽器」

ウイーンフィルハーモニー木管グループ

3．モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

Westminster のモノーラル盤ということで、Columbia、逆相、第 4 時定数 Low で聴いていきます。「グランパルティータ」とも称され、定評のあるウイーンフィルの木管演奏者達が演奏しています。

LINN LP-12 の再生では、モノーラル盤ながらゆったりと穏やかな演奏で、ナロウレンジですが、木管の膨らみのある音が聴けます。

ThorensTD12 の再生では、大筋では LINN LP-12 の再生と同様ですが、押し出しと厚みが増します。

4．まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入および ThorenTD124 のターンテーブルシートの交換などの総合的な効果として、モノーラル盤でナロウレンジながら、木管の膨らみのある音が聴けますし、LINN LP-12 と ThorensTD124 の違いも聴き取れます。

以上